

平成 25 年 12 月

# 助言指導マニュアル

三重県交通共済協同組合

# 運転適性診断結果票について

## 運転適性診断はドライバーの心と体の安全チェック

適性診断は、以下の項目において人の特性を把握し、これらの安全運転に必要な事項を総合的にアドバイスするものです。

- ① 心理面（ドライバーの性格、安全運転態度、危険感受性、動作の円滑さ、動作の正確さ、判断・動作）
- ② 医学面（視力、動体視力、夜間視力、深視力、視野）

運転操作検査器は、検査結果を以下の項目でプリンターを用い印刷出力されます。

診断項目（四項目）	①単純反応検査      ②選択反応検査 ③ハンドル操作検査   ④注意配分・複数作業検査												
同年代	同年代との比較で優れているか、劣っているかを評価しています 16-19歳   20-29歳   30-39歳   40-49歳   50-59歳 60-64歳   65-69歳   70-75歳   76-79歳   80歳以上												
標準比較	30-59歳の平均的評価との比較です 比較的安定した年齢（30歳-59歳）を標準比較評価としています												
測定値	「なま」の値（0に近いほど「良」と想定しています。）												
評価値	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">（意 味）</td> <td style="text-align: center;">（診断票での意味づけ）</td> </tr> <tr> <td>1. 劣っている</td> <td>注意</td> </tr> <tr> <td>2. やや劣っている</td> <td>やや注意</td> </tr> <tr> <td>3. ふつう</td> <td>普通</td> </tr> <tr> <td>4. やや優れている</td> <td>やや優れている</td> </tr> <tr> <td>5. 優れている</td> <td>優れている</td> </tr> </table> <p>ここで注意が必要なのは、評価は平均的な人との比較であり、能力や安全性を絶対的に評価するものではありません。評価値が1の場合でも、直ちに危険であるとはいえません。また、5であるから安全であるという根拠にはなりません。</p>	（意 味）	（診断票での意味づけ）	1. 劣っている	注意	2. やや劣っている	やや注意	3. ふつう	普通	4. やや優れている	やや優れている	5. 優れている	優れている
（意 味）	（診断票での意味づけ）												
1. 劣っている	注意												
2. やや劣っている	やや注意												
3. ふつう	普通												
4. やや優れている	やや優れている												
5. 優れている	優れている												
結果解説	検査の内容に即してして結果を簡単に説明しています												
アドバイス （個別検査結果欄）	運転場面に置き換えて全体的な注意事項などを説明しています												
総合評価	全ての評価値を平均した値で、同年代と標準比較（30~59歳）に対する評価値を表しています。（結果寸評：特に特徴的だった項目を選び、その傾向を指摘しています。）												
アドバイス （総合評価欄）	特に特徴的だった項目を選び、運転場面に即したアドバイスを示しています。												

## 検査結果の個別指導のポイント

診断結果から指導は、次のようなことをポイントで行いましょう。

### ① 評価値3～5はあまり大きな差はない。

おおむね、どの検査、どの評価項目をとってみても、測定値の分布は多くの人が「良い」側で比較的近い値をとって集中しており、小数の人がかけはなれた「悪い」値をとる傾向があるため、「良い」側での評価は測定結果の少しの変化で評価値が大きく異なる結果になります。このような理由で評価値3～5の間の差はあまり本質的なものではないと考えて差し支えありません。

従って指導のポイントを決める際には、受検者が一番悪い値（1や2）をどの項目でとったかに注目する。

### ② 「単純反応検査：反応の速さとムラ」の「反応のムラ」が悪い場合

突発的な反応時間の遅れが生じている可能性があります。この要因は、事故多発傾向と関連が深いとの指摘がありますので、十分に注意が必要です。

### ③ 「選択反応検査：操作の選択と速さ」の「反応の速さ」が悪い場合

「判断は正しくても、判断までの時間がかかる」ということがあり、特に高齢者の特徴としてあげられます。「時間がかかっている」ことを納得してもらうことと、そのことに対する対処の仕方の指導に重点を置くことが必要です。

④ 「注意配分・複数作業検査：複数の課題への注意の配分」の「反応の正確さ」が悪い場合

「ひとつひとつのことはこなせても、同時になると能力が落ちる」ことを自覚してもらおうこと、「運転」というのは、まさに、このような同時に処理が必要な課題の集まりである、ということを理解して、それに対する対処の仕方を受講者と一緒に考えてみましょう。